

# 雪印千葉農場における

## 牧草類の經濟的生存年限の觀察

千葉県千志津原開拓地の事例

基礎として牧草類の經濟的栽培年限について所見を述べたい。数字的な発表は他の機会に譲り概略を記して今秋草生改良等に志す方たちの御参考の一助になれば幸甚である。

牧草の生育に關係する条件は、土地、氣候、管理の方法あるいは品種等頗る複雑であり弊農場の事例により他を推測することは多分に危険であることを前提として御断りいたしたい。

千葉農場は千葉県千葉市長沼原町にあり元陸軍演習場の跡地で、荒廢に任せられ、ススキ、チガヤ、メヒシバ、ヤハズソウ、ササ、イバラ、ボケ、ノバラ、ハギ、メドハギ等の雜生して草生不良な瘠薄地であり立木はクリ、クヌギ等僅かに灌木が散生しておるに過ぎなかつた。土壌は洪積層を被覆する火山灰による褐色森林土で組織は輕鬆であり、乾燥すれば風塵天に沖し降雨あれば泥濘と化す、磷酸欠乏土壤で磷酸を無視しては作物の生産は望み得られずP・Hは四・五程度であつた。地下水は七米程度である。

開墾初年度は終戦直後の昭和二十二年であつたが、当地方の主作物の生産量は

甘 藷 反当七〇貫  
麦 類 同 二斗

玉蜀黍 ほとんど結実せず  
クローバー類は發芽後枯死せり

と言つた状態であつた。もちろん重要な磷酸肥料が不足であつたので当然であつたのであるが、漸次開墾も進歩し五カ年後の昭和二十六年には

甘 藷 反当四〇〇貫  
麦 類 同 二俵  
玉蜀黍 同 一石  
クローバー類 同 六〇〇貫

程度に増収をみた。牧草の試作は昭和二十六年春から実施した。栽培した多年生、短年生牧草は次の如きものである。

まめ科 赤クローバー、ルーサン、バーズフットトリフォイル、ストロベリークローバー、ケンランドクローバー（赤クローバーの一種）、白クローバー、ラデノクローバー。

いね科 オーチチャードグラス、チモシー、ベレニアルライグラス、スイトバーナルグラス、メドウフロックステール、メドウプルームグラス、アルターフェスク、ケンタッキ31フェスク、アルパインフェスク、トルオートグラス、トルフェスク、レッドトップ、ケンタッキブリュエーグラス、リードキャナリーグラス。

その後の経過を簡述すれば次の通りである。

すなわちまめ科について、ラデノクローバーは次年度において枯死し、白クローバー及び赤クローバーは三年目にほとんど衰弱して枯死した。現在（五年目）に残つてゐるのは、ルーサン、ストロベリークローバー、ケンランドクローバー、バーズフットトリフォイルの四種で、ルーサンは三分の一は枯死した。バーズフットトリフォイルは衰弱甚しい。ケンランドクローバーとストロベリークローバーは比較的元氣であるが、その内ケンランドクローバーも經濟的限度が近い。

うに觀察される。ストロベリーのみは經濟的な価値を失つておらないように認められる。ルーサンの一部枯死せるはその場所の土壤の關係でないかと推察される。

次にいね科はほとんど残存しているが、(1) 甚だ生育不振なるもの

ケンタッキブリュエーグラス、メドウフオックステール、ベレニアルライグラス。

(2) やや生育不振なるもの

メドウプルームグラス、レッドトップ、スイトバーナルグラス。

(3) 生育普通なるもの

リードキャナリーグラス、チモシー、トルオートグラス、オーチチャードグラス。

(4) 生育旺盛なるもの

アルパイン、トル、ケンタッキ31、等のフェスク類。

その中「トルオート」「スイトバーナルグラス」は根上りして地際より六寸と七寸高くなつてゐる、「ベレニアルライグラス」も根上りして不安定の状態を呈している。「ケンタッキブリュエーグラス」「レッドトップ」等は他の雜草の侵害を受けている。

オーチチャードも幾分株を形成しているが、以上の觀察により、まめ科牧草で經濟的生存年限の永いものはストロベリークローバー及びケンランドクローバーであり、いね科ではフェスク類、チモシー、オーチチャード、リードキャナリーグラス等である。トルオートも生存年限は永いがあまり根上りして実用上支障があるように思われる。管理

については相当熱心によつた積りである。(雪印種苗千葉農場長・安孫子六郎)